

平成 29 年度自然保護委員総会 第 41 回山岳自然保護の集い 白山大会

資料編



公益社団法人

日本山岳・スポーツクライミング協会

目次

	ページ
活動報告書	
山形	002
茨城	004
栃木	006
群馬	008
埼玉	009
千葉	011
公社) 東京	013
神奈川	015
山梨	017
新潟	019
長野	021
富山	022
石川	024
福井	025
静岡	026
愛知	027
三重	027
岐阜	028
京都	030
一社) 大阪	031
兵庫	033
和歌山	034
鳥取	035
岡山	036
一社) 広島	037
山口	038
徳島	040
高知	040
長崎	040
鹿児島県山岳・スポーツライミング協会	040
フィールドスタディー資料	
白峰地区の伝統文化財の探訪	041
オプション山行資料	
白山登山	044
開催地一覧表	046

平成 28 年 9 月 16 日発行【第 16 号】

朝日連峰保全協議会 ニュースレター

発行者：朝日連峰保全協議会

■平成 28 年度 朝日連峰保全協議会 合同保全作業の報告について

今年度の合同保全作業は平成 28 年 8 月 27 日（土）に、朝日連峰オツボ峰にて実施しました。当会の合同保全作業は 9 回目（平成 20 年実証試験を含む）を迎え、オツボ峰においては平成 26 年に続き 2 回目の合同保全作業となりました。

【作業地概況】

朝日連峰オツボ峰の尾根沿い、「風衝地」と呼ばれる風が強く吹き付ける場所です。表土層がもろくなっており、流水の集中による洗掘や、踏圧による登山道の荒廃が進んでいたことから、2 年前に土砂の安定化を意図して、土留工、排水工を中心とした保全作業を行いました。

【実施スケジュール】

●8 月 27 日（土）

- 8:00 大鳥小屋集合、挨拶・班編制
- 8:15 登山開始
- 10:30 オツボ峰着（3 班に分かれ作業）
モニタリング・簡易補修作業
- 12:15 作業ふりかえり
- 13:30 下山開始
- 15:00 大鳥小屋着、解散



【出発前、渋谷代表の挨拶】

【作業内容】

今回は H26 年作業地の「モニタリング」を主目的として実施しました。3 班（1 班 1500m 付近、2 班 1530m 付近、3 班 1600m 付近）に分かれ、2 年間での作業地の変化を観察しました。その際、各班には記録係を 1 名、写真係を 1 名ずつ設定し、2 年前の作業で上手くいった箇所、改善・補修が必要であった箇所を記録しました。記録頂いた内容については各班長による編集の後、事務局より参加者皆様に共有させていただきます。

また、改善が必要であった箇所については、ヤシ土嚢（10 袋／各班）とヤシ繊維（約 1kg／各班）を使用し、補修作業を行っております。

■作業風景



【ヤシ土嚢への植物の侵入状況】



【ヤシネットへの植物の侵入状況を観察】



【砂防ダムの効果により土砂が堆積】



【1班 ヤシ繊維を混ぜた土嚢の設置】

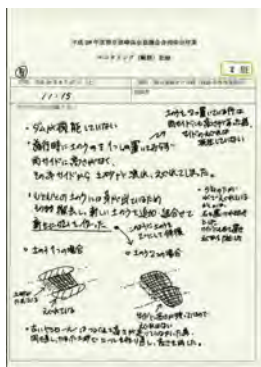
【2班 洗掘された流路の修復】

【3班 破れが見られた土嚢の補修】

1班（作業地最下流）では、設置していた土嚢の多くの箇所ですぐ植物の芽生えを確認。土嚢がプールを作り土砂を留めている様子が確認でき、流路の深掘れ対策に効果が見られました。また、排水工についても土砂に埋もれることなく、期待通り機能していることが確認されました。補修については、前回、登山道へ土留めを目的に設置していた土嚢が上手く機能しており、土砂の堆積が見られたため、次のステップとして、登山道へのさらなる土砂の堆積を目標に、追加で土嚢を設置しました。

2班（作業地中流）では、洗掘された流路へ土嚢を設置していた箇所において、土嚢の脇へ水が流れたことによる新たな浸食が見られたことから、前回施工した土嚢袋の移動や、土嚢の追加により、流路の脇固めを行いました。その際、より流路幅の狭い箇所へ土嚢を設置することにより、土嚢の必要数を節約しました。また、排水工が土砂で埋まっていたため、この復元も行いました。

3班（作業地上流）では、ヤシネットにハイマツの蕾が確認され、ネット固定のための重りとして設置した石の陰にも植物の侵入が見られました。2年前に施工した場所に土砂が平面的に溜まり、砂防ダムのように土砂を留めていることも確認されました。ヤシネットや土嚢に破けが見られた箇所では、ヤシ繊維による間詰めや土嚢袋の追加による補強を行いました。



【記録の例】



【ふりかえりの様子】



【集合写真】

今回の作業には12団体、22名の方々に作業に参加がありました。雨天の予想もありましたが、当日は天候に恵まれ、無事予定していた作業をおえることができました。

幹事の鶴岡山岳会の高橋実氏には当日の統括リーダーとして全体の指揮監督、大鳥小屋管理人の佐藤義幸氏には前日の宿泊について、子細に渡りご協力いただきました。また、林野庁東北森林管理局朝日庄内森林生態系保全センター、環境省東北地方環境事務所より資材提供がありました。作業に関わっていただいた山岳関係者の皆様、地域の皆様に厚く御礼申し上げます。

【参考ホームページ】

- ・環境省 磐梯朝日国立公園 各種資料
(朝日連峰保全協議会の会則やニュースレター等)
<http://www.env.go.jp/park/bandai/data/index.html>
- ・東北地区アクティブレジャー日記
<http://tohoku.env.go.jp/blog/>

【発行者】

朝日連峰保全協議会（事務局）羽黒自然保護官事務所 しももと ふるかわ（下本、古川）

〒997-0141 山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰 39-4

TEL : 0235-62-4777 ・ 080-2801-0648 FAX : 0235-62-4537 E-mail : RO-HAGURO@env.go.jp

茨城県山岳連盟自然保護委員活動報告(2017年9月総会用)

2017(H29)年8月 茨城県山岳連盟 自然保護委員長 中沢隆一

1. 茨城県山岳連盟の自然保護委員の概況 (H29-8/1時点)

- ・自然保護委員 合計35名(内1名は日山協自然保護常任委員)-内訳岳連加盟30団体中9団体より34名、岳連の個人会員1名。
- ・日山協自然保護指導員登録 合計26名:7団体より選出、及び個人会員1名(H28から5名増加)

2. 地域・活動概況

茨城県は県南に多数の登山愛好家で賑わう筑波山を擁し、県北の福島県境の八溝山(1022m)を最高峰に標高1000m未満の阿武隈山系と八溝山系の穏やかな山容に恵まれ、低山、里山のハイキングから、高鈴山系の霊山、御岩山の岩場のロッククライミング、竜神峡の本格的な沢登りまで幅広い山行形態が県内、近県の登山愛好者に愛されている。自然保護委員会では、一般募集の清掃登山を中心に身近な自然に親しみ、自然保護活動に参加して頂ける機会を設け、登山愛好者が自然に触れる機会を増やし、併せて自然保護意識の高揚を図ることを目指して活動している。

3. 活動報告(昨年度報告以降、H28/8-H29/7)

(H28年度)

3.1 日山協主催、第40回記念山岳自然保護の集い 中央大会(H28年度自然保護委員総会)

9/3-4(土・日) 国立代々木オリンピック記念青少年総合センター 参加者2名

- 1) 基調講演:山岳自然とライチョウ保護活動の現状 東邦大学 小林篤研究員
山岳自然保護の大切さと特定生物の保護の難しさについて講演頂いた。
- 2) 事業報告、事業計画、各県の活動報告
有名な山岳地帯を抱える地域、人口の多い地域の活動は内容に多様性があり、活動量も多く活発な事を感じた。低山里山が中心の茨城は、自然の解説が新しい話題と知識に繋がり、好評なので、ジオパークのインタープリターに毎回、解説をお願いしている。
- 3) 分科会討議:結論は出ないが共通の悩みはトイレと自然保護委員の高齢化か。
- 4) フィールドスタディ:明治神宮と自然教育園に分かれて見学・散策。大都会のすぐ近くに人工の大自然がある事に感動した。情報交換と大都会の自然に触れる事が出来た貴重な2日間だった。都岳連の皆様、お世話になりました。

3.2 関東地区自然保護交流会

10/1-2(土日) 千葉県山岳連盟主管。昨年の開催が茨城県でお世話になった事もあり、4名の参加となった。千葉県の活動報告・房総の自然解説を中心に情報交換が出来た。鋸山周辺のハイキングに参加し、房総半島の豊かな自然に接する事が出来た得難い2日間だった。濱田委員長他関係者には大変お世話になりました。

3.3 筑波山清掃登山 12月4日(日)

紅葉の混雑の一段落した初冬に一般参加を募集して筑波山の清掃登山を行っている。

- 1) 参加者、概況等:岳連所属5団体、52名、岳連未加盟3団体19名、個人参加1名 合計72名山麓の筑波山神社から御幸ヶ原に至る2コース(①つつじヶ丘経由に37名、②ケーブルカー沿いに登るコースに35名)に分かれて登り、御幸ヶ原に集合、ゴミを分別収集し、ケーブルカーで手分けして下ろし、筑波山神社に処分をお願いした。
- 2) 収集ごみの状況:量は昨年と同様。不燃ごみ 空き缶、金属類、1/3袋、ガラス瓶、ガラス屑1/2袋、可燃ごみ プラスチック屑、紙類、1袋、ペットボトル類 1/2袋 (1袋は約100×120cm 公称120L)
- 3) 特記事項として、昨年に引き続き、つくば市、及び筑波山地域ジオパーク推進協議会の後援を得て、コースの主要ポイントで筑波山地域の自然の解説を行って頂いた。
- 4) 総括 前週の降雪は消え、登山道の泥濘・凍結は無く、歩き易い一日だった。穏やかな天候の初冬の日を楽しく過ごせた事を期待する。自然保護委員の参加が少なく、かろうじて役員を構成出来た状況だった事は反省点。

(H29 年度)

3. 4 神峰山・高鈴山清掃登山 4/16 (日)

今年は桜の開花には少し早かったが、一般参加を募集して県北の花の百名山、高鈴山、隣の神峰山の清掃登山を開催した。

- 1) 参加者：岳連所属 5 団体、30 名、岳連未加盟 1 団体 3 名(県北ジオパーク関係者)、個人参加 11 名
合計 44 名
- 2) コース概況、参加人数：A(高鈴山) 22 名、B(神峰山) 22 名、合計 44 名
登山コースの投棄ゴミは少なく例年通りきれいである。高鈴山頂は展望台周辺の成長した樹木が伐採されて県北方向の眺望が良くなったが、西方向の眺望は樹木に遮られて良くは見えない。
登山口の駐車場周辺に大型の不法投棄ゴミが目立つ。駐車場を所管する高萩土木事務所から連絡があり、思いは同じだが、予算の都合で思うように行かない事を嘆いておられた。県外からの来訪もあるこの山域の入り口にふさわしくない状況で、何らかの対応を考える必要がある。
- 3) 収集ごみの状況：
空き缶、金属類 1/2袋/ガラス瓶、ガラス屑類 1/2袋/可燃ごみ 3袋 (合計5袋)
(ごみ袋は約 70×90cm、公称90L、日立市清掃センターに収集を依頼した)
- 4) 特記事項：今年も 日立市の後援が得られ、ジオネット日立(茨城県北ジオパーク)との共催を実現出来た。また、各所での自然解説等、登山プラスαの楽しみ方を得る事が出来た。
- 5) 総括：天気予報が雨天から晴天に変わり、暑いくらいの好天の一日となった。駐車場周辺の不法投棄が、高鈴山、神峰山を目指して訪れる方々の心証を悪くすることが心配である。
- 6) 清掃登山終了後、自然保護委員会の総会を開催。前年の活動報告、今年度の予定等を打合せた。

出席者 11名

- ### 3. 5 身近な水環境の全国一斉調査：県内の河川 2 地点で COD、水温を調査・・・6/4(日) 参加 2 名
- 全国規模のイベントに参加、毎年測定結果を報告している。測定ポイントは鮎釣りの名所で昨年同様に賑わっているが、昨年より少なめ。清流で濁りは無いが、一昨日の雷雨の影響か例年より水量が多め。

場所	水温(℃)	気温(℃)	COD (1/2/3) 回目(mgO/L)
1) 那珂川(千代橋左岸橋下)	21	23	2/1/1
2) 久慈川(湯の里大橋右岸橋下)	19	20	3/2/3

(H29 年度 今後の予定)

3. 6 9/9-10(土・日)：第 41 回 日山協自然保護委員総会 開催地：石川県 白山
3. 7 10/21-22(土・日) 関東地区、参加者募集：(日山協) 関東地区自然保護交流会(開催地：雲取山)
3. 8 12/3(日) 一般募集：筑波山清掃登山

<活動状況記録写真>



筑波山清掃登山



高鈴山・神峰山清掃登山

平成29年度自然保護委員会事業報告

平成29年8月31日

起4月～3月至

栃木県山岳連盟自然保護委員会

手塚福寿

◇「筆者と登る栃木百名山」山行協力開催…期間 平成29年5月～11月

第1回	5月21日(日)	鶏足山	参加者24名	引率者3名
第2回	6月25日(日)	若見山	” 27名	” 4名
第3回	7月30日(日)	女峰山	” 25名	” 5名
第4回	8月20日(日)	庚申山	” 22名	” 3名
第5回	9月30日(土)	葛老山		
第6回	10月29日(日)	大鳥屋山		
第7回	11月19日(日)	月山		

◇山岳自然保護の集い「第44回日光清掃登山」開催

前夜祭 日時 平成29年7月1日(土)

会場 日光湯元スキー場 18:30～21:00 参加者21名

自然保護委員会開催 13:00～ 参加者7名

講演会 演題 著書「日光修験 三峯五禅頂の道」17:00～

講師 池田正夫氏(NPO法人古賀志山を守ろう会理事長)

*講演会会場(雨のため、ビジターセンターレクチャールームで実施)

参加者 18名

清掃登山 日時 平成29年7月2日(日) 開会式7:30～

会場 日光湯元ビジターセンター広場

共催 日本山岳会栃木支部

清掃区域 白根山・社山・半月山・男体山・太郎山・切込、苧込湖
丸沼・戦場ヶ原等10地域(コースは各山岳会で設定)

自然観察 戦場ヶ原 一般自然愛好者と共に散策

講師 鈴木文益氏(日光自然博物館所属)

下山 16:00 流れ解散

参加者 18団体 計127名

○ゴミ回収は全般的に少なくなっているが、弁当についている輪ゴム・飴の包み紙・ビニール袋等小さなゴミが目立つ。登山道を外れた場所ではペットボトル・排泄後のティッシュも多いため、今後も清掃登山を中心に、登山道周辺の環境整備及び安全に登山ができるように努めていきたい。

◇三斗小屋宿跡 オオハンゴンソウ駆除活動協力

日時 平成29年8月3日(木)

集合場所 深山湖ゲート前
作業開始 9:30 (30分ごとに休憩)
作業終了 15:30

主催・・・環境省日光国立公園那須管理事務所

◇第40回 那須クリーンキャンペーン&清掃登山

前夜祭 日時 平成29年9月2日(土)
会場 那須峠の茶屋見晴らし園地(東屋)
懇親会 18:00~21:00

クリーンキャンペーン&清掃登山

日時 平成29年9月3日(日)
会場 峠の茶屋駐車場
キャンペーン・・・登山移動所前6:30~
ロープウェイ山麓駅8:30~
共催 日本山岳会栃木支部 栃木県勤労者山岳連盟
清掃区域 那須山系周辺(小雨決行)
ゴミ処理 各会各自処理
下山 15:00流れ解散

第2回「山の日」in 那須記念イベント引率協力

日時 平成29年9月3日(土)
登山コース 南月山 30名引率

◇平成29年度 第41回日山協自然保護常任委員研修会参加

17日(土) 会場 神奈川県立21世紀の森研修室 13:00集合
講演会 演題「山岳と天狗について」 講師 とよだ時氏
森の巡視 紅葉常任委員先導

18日(日)

フィールドスタディ
足柄森林公園丸太の森
大雄山最乗寺

参加者 6名

◇日山協自然保護指導員総会石川県大会参加

日時 平成29年9月9日(土)~10日(日)
会場 白峯温泉御前荘(白山市)
参加者 7名

平成29年度群馬岳連自然保護委員会事業計画

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

平成29年度重点課題

- ① 自然観察会(岳人ならでの観察会)の実施
- ② 日山協自然保護指導員有資格者の組織化と連携及び増員(拡大・強化)
- ③ 山岳地自然環境保護活動に必要な事業及び他との連携

月	日	行 事 名	場 所・会 場
4	11(火)	自然保護委員会総会	前橋山岳会例会場
5	9(火)	第1回 委員会	前橋山岳会例会場
5	27(土)	群馬岳連総会	場所未定
5	28(日)	群馬岳連自然観察会	赤城・船ヶ鼻山
5	28(日)	群馬県春のクリーン重点地区清掃活動	上記に同じ
6	3(土)	尾瀬ごみ持ち帰り運動	大清水口
7	2(日)	谷川岳山開き・清掃登山	谷川土合口
7	6(木)～8(土)	日山協全日本登山大会	北海道
7	11(火)	第2回 委員会	前橋山岳会例会場
8	11(金祝)	山の日記念事業(群馬岳連)	みなかみ周辺
9	9(土)10(日)	日山協自然保護委員全国総会	石川県白山市
9	12(火)	第3回 委員会	前橋山岳会例会場
9	23(土)～24(月)	上州武尊ウルトラスカイビュートレイルラン大会	武尊山周辺
10	29(日)	県民登山大会兼群馬県秋の環境美化運動	場所未定
11	11(土)	日山協自然保護指導員研修(都岳連主管)	オリンピック青少年センター
11	14(火)	第4回 委員会	前橋山岳会例会場
11		日光国立公園自然公園指導員意見交換会	栃木県日光市
12		群馬岳連忘年会	未定
1	9(火)	第5回 委員会	前橋山岳会例会場
2	3(土)4(日)	関東地区山岳連盟総会	群馬岳連主管
2	13(火)14(水)	自然保護委員会宿泊研修	みなかみ町
2	(土) (日)	日山協関東地区自然保護委員交流会	東京伊豆大島
3	13(火)	第6回 委員会	前橋山岳会例会場

28-29年度埼玉県自然保護委員会活動報告

埼玉県山岳連盟自然保護委員会

1. 9月3~4日 日山協自然保護指導員総会
 - ☆ フィールドスタディー両神山登山 主催：日山協 主管：埼玉県山岳連盟自然保護委員会
 - 3日 小鹿野町「梁山泊」にて懇親会=25名参加
 - 4日 両神登山 県外=14名 県指導員多数のサポート=6名参加
2. 10月1~2日 第5回関東地区自然保護委員交流会
 - ☆ 主催：日山協 主管：千葉県山岳連盟自然保護委員会
 - 1日 南房総市（講演会）…細部日山協報告書参照
 - 2日 鋸山登山…細部日山協報告書参照
3. 11月5日 自然保護指導員研修会・講習会 主催：日山協 主管：東京都山岳連盟自然保護委員会
 - ☆ 国立オリンピック少年総合センター ※ 細部日山協報告書参照
 - ※ 自然保護指導員制度について
 - ※ 講演 巻機山40年の自然環境の修復・復元活動について 講師 栗田和弥氏
4. 12月12日 父不見山調査登山
 - ※ 登山道の状況調査及び指導標調査・清掃登山の3班の別れ実施
 - ※ 地元行政（小鹿野町・小鹿野警察署・県みどり自然課）に報告書提出



ガイドロープの設置 破壊された指導標 トレランのコース案内テープ 回収した塵（トレラン関係多し）
調査コースは群馬県神流町が主催するトレランコースです、トレランのコース案内板（段ボール）の回収はせず放置のままです。

5. 29年2月4~5日 関東ブロック総会 山梨県山岳連盟 昭和町
 - ※ 自然保護分科会 関東ブロックでの統一事業行動を示唆し、各県の情報の共有を図る事とする。
6. 2月18日 自然保護指導員研修・講習会 長瀬自然博物館・元気プラザ
 - ※ 自然保護指導員制度について 松隈 豊氏（日山協自然保護委員長）
 - ※ 講演 秩父の自然と生業—産業から癒しへ 吉田 健一氏（秩父ジオパーク説明員）



研修会（松隈氏の講演） 吉田講師の説明 虎岩の案内板 長瀬の河原に存在する虎岩

※ 19日 長瀬アルプス自然観察会 クリーン登山調査報告 ⇒早急な行政対応!



宝登山神社奥宮で柳原副委員長の講話 ナラ沢畔に捨てられていた塵 長瀬町が塵回収後（県みどり自然課経由）

☆ 県みどり自然課に状況説明を行った結果、長瀬町が迅速（連絡後1週間以内に実施）に塵の回収をした。

7. 3月11日 第1回自然環境セミナー 国立オリンピック少年総合センター ※ 山岳環境7団体主催
 ※ ニホン鹿による食害の現状の基調講演と参加パネラーによるトーク…細部日山協報告書参照
8. 3月25日 カタクリ調査活動
 ※ 美里町円良田地区の自生カタクリの現状確認と今後の課題を調査・報告書に纏める
 ※ 調査結果のまとめ



9. 4月ビフォー・アフター調査活動

4月23日に開催される7,000人からの多数が動員される七峰縦走イベントに際し、実施前・実施後の登山道の変化状況を写真撮影して、実施前・実施後の比較を行い多人数登山の自然へ与える影響を調べ関係部署に善処を求める資料とする。



- 7,000人参加のハイキングで通行した階段脇にトレースが鮮やかに出来て居ました。写真①=実施前 ②=実施後
- 論外の某トレラン主催団体 (NPO 法人) が写真①②の上部からの下り時の通行指示板

①実施前の写真時 (4/20) ② 実施後の写真 (4/23) ③某トレラン主催団体掲示の案内

10. 4月29・30日 【二子岳開山式】【三峰自然観察会】

29日 小鹿野【四阿屋山 771m】の鎖場調査を行う。

30日 パワースポットで人気の三峰神社表山道の調査及びブクリーン清掃を行う。

ロープウェイの廃止と共に寂れてしまった感のある2時間半の登山道ですが、各所に趣もあり、確り歩く事で更にそのご利益もと思われる。ふたたび多くのハイカーに利用される事を望む。一部に生活ゴミの放棄も認められるが、早急な改善が望まれる。

※ 三峰山の三角点・三角基準点の調査と説明を山口委員により行われ、特に基準点が三峰山に有り、その役割の大きさと重要性 (緯経度変化を筑波の研究所に逐次送信している) を参加者は知ることが出来たと思います。

11. 6月環境月間 埼玉県山岳連盟傘下山岳会によるクリーン登山を行う

【登山道の道標、崩壊等のチェックとクリーン清掃を実施、県内資料として纏める】

12. 6月17~18日 自然保護委員会常任研修会に参加 神奈川 足柄…細部日山協報告書参照

千葉県における自然保護活動について

千葉県山岳連盟自然保護委員会

1 自然保護委員会事業報告

(1) 鋸山(南房総国定公園)及び富山(県立自然公園)の植物調査

- ① 期 間 平成28年9月～29年8月
- ② 調査対象 千葉県レッドリスト植物など

(2) 鋸山自然観察ハイク

- ① 日 時 平成29年3月18日(参加者:6名)
- ② 日 時 平成29年9月2日・5日

(3) 鋸山及び富山の植物調査及び稀少植物の報告

- ① 期 間 平成28年9月～29年8月
- ② 報 告 千葉県生物多様性センターへ
- ③ 報告対象 千葉県レッドリスト植物など
- ④ 報告植物 レッドリストの「ヒカゲツツジ」「アワチドリ」
「ノコギリヒゴタイ」「ハンカイシオガマ」などを報告

(4) 関東ブロック自然保護指導員交流会の実施

- ① 日 時 平成28年10月1日～2日
- ② 場 所 鋸 山
- ③ 参 加 者 44名
- ④ 実施内容 研修会及び鋸山交流登山

(5) 房総の山の巡見・清掃登山

- ① 期 間 12月～3月
- ② 場 所 内房及び南房総山城

(6) 県民ハイクにおける清掃活動及び啓蒙

- ① 日 時 平成28年1月29日
- ② 場 所 房総アルプス

2 その他

(1) 日山協自然保護委員総会への参加

- ① 日 時 平成28年9月3日～4日
- ② 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

(2) 日山協自然保護常任委員研修会への参加

- ① 日 時 平成29年6月17日～18日
- ② 場 所 神奈川県南足柄

(3) 日山協自然保護指導員研修会への参加

- ① 日 時 平成28年11月5日
- ② 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

東京都山岳連盟自然保護委員会活動の記録(抄)

(期間 自 2016年9月1日 至 2017年8月31日迄)

公益社団法人東京都山岳連盟(以下都岳連)自然保護委員会は、現在21名の専門委員により、約230名の都岳連傘下の自然保護指導員の協力の下、主として秩父・多摩・甲斐国立公園を中心に①山岳環境保全活動、②山岳環境調査活動、③啓もう活動、④委員研修・講習会の4つを柱に、年間20以上の活動を活発に行っている。

①の活動 カタクリパトロール

パトロール期間 自4月1日～5月31日 (カタクリ開花期) 6/3看板撤収

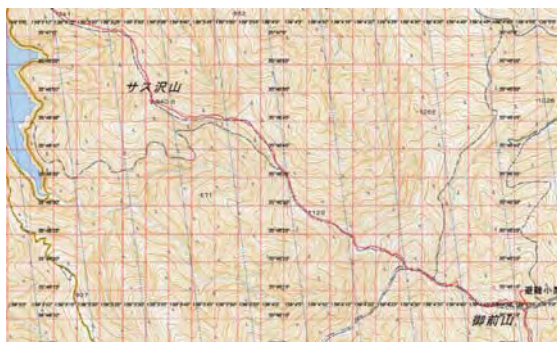
参加者 20名

主な活動 シカ食害調査のためのコース上のカタクリ分布調査 (マッピング)

シカ食害調査のために1平方メートル内のカタクリ株数カウント

コース上のシカ食害調査

*これまで行っていたカタクリ保護柵の設置は行わなかった



コース上の花分布調査記入図



シカ食害の花株



シカの食害跡

②の活動 ●野生動物調査のためにセンサーカメラ設置

SDカード・電池の交換('16.9.18、'17.2.12)、3年間の許可期間満了に伴うセンサーカメラ回収('17.4.15)

●全国一斉水質調査への参加 (6月3～4日) ・

調査ポイント 高尾山2ポイント、御前山3ポイント

調査項目 1)測定時間、2)天候、3)気温 4)水温、5)COD

●雲取山(東京都最高峰2017m)調査山行

調査日 12月10～11日、7月8～9日 (年2回)

調査項目 シカの食害による樹木の立枯れ状況、

雲取山荘の夏季のバイオトイレ、冬季の蛎殻トイレ、避難小屋トイレの利用状況

奥多摩小屋の2018年3月閉鎖に向けての準備状況



センサーカメラのメンテ



センサーカメラ撤収



比色法によるCOD調査



冬の奥多摩小屋テント場



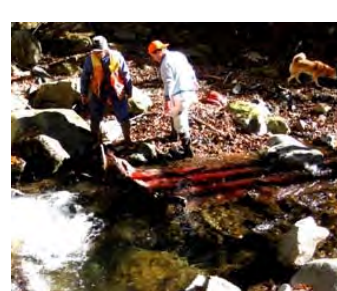
雲取小屋主とのインタビュー



シカ猟



モノレール
(*捕獲したシカを運搬)



シカ解体中



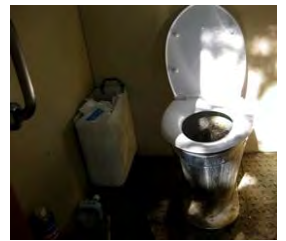
夏の奥多摩小屋テント場



マルバダケブキの群落
(*シカは食さない)



雲取小屋主とのインタビュー



雲取避難小屋トイレ
(*メンテナンス不十分)

③の活動 ●高尾山クリーンキャンペーン

活動日 6月4日(環境月間6月の第一日曜日)

参加者数 76名 自然に優しい山歩きをアピールしながらの清掃山行。

●自然観察会

活動日 2016年10月18日・2017年5月14日の年2回、おもしろ地球観察会3月6日

参加者数 秋25名 春23名 45名 (いずれもスタッフ込)

④の活動 新人専門委員研修会(2/27) 指導員講習会(新規6/7 机上・6/11 実地、更新)

専門委員の研修、自然保護指導員の新規および更新のための研修および情報交換 等々



クリーンキャンペーン



秋の観察会



春の観察会



おもしろ地球観察会

●これまでの活動のまとめてして、「奥多摩御前山における環境調査報告書」を刊行しました

奥多摩御前山における
環境調査報告書
(水質調査を中心として)

2016年9月1日

東京都府中市自然保護委員会

<http://mt-shizen.org/dat/f20161120kankvrepo2016.pdf>

でダウンロードできます

あわせて御前山リーフレットを作成



携帯トイレを紹介しています keitaitoile@gmail.com

●原則毎月第4火曜日に定例委員会を開催し、各種活動につき討議を行っている

詳細は都岳連自然保護委員会HP <http://mt-shizen.org/>

1. 委員会構成概要

自然保護委員会関係の構成概要は次表の通り。

構成名称	構成員数 (人)
自然保護委員会	21
自然保護指導員	61
環境省自然公園指導員	36
森林づくりボランティア活動実行委員会	15

2. 活動概要

1) クリーン活動

◆丹沢大山クリンピア 21 活動 (各山岳協会・自然保護指導員・自然公園指導員が連携 通年)
 ゴミ持ち帰り運動に参加。平成 28 年度分活動実績は次表の通り。

活動	実施回数	参加者数 (名)		回収ゴミ	
		男	女	可燃	不燃
H28 年度 (H28/3/1~H28/12/31)	72	466	436	168	147

※広沢寺岩場清掃集会 (広沢寺の岩場を守る会) への参加協力も行っている。

2) 自然再生活動

◆第八回環境登山 (パートI : 29/5/21、パートII : H29/9/25)

山岳地 (丹沢山塊) の崩落跡の裸地の植生回復を目指した植栽を行っている。年 2 回の集合活動を実施し、春には植栽、秋には苗木の点検保守を実施した。平成 29 年春で合計 700 本を活着達成。



◆森林づくりボランティア活動 (通年)

清川村の県有水源林の約 8 ヘクタールを使い、県助成金をバックに森林づくりボランティア活動を実施している。放置され荒れた旧里山の林地を健全な森林に回復活動を実践した。(第 68 ~ 。年間 10 回予定)



◆荒廃農地整備活動 (H29/6/20~8/20)

チェーンソー技術研修を兼ねて荒廃農地の整備ボランティアを実施した。2 回実施済み。



3) 教育・研鑽活動

◆山の自然セミナー (H29/3/25~3/26)

第六回山の自然セミナーを県立山岳スポーツセンター及び丹沢ニノ塔にて1泊2日で開催。第一日目は県職を講師に丹沢のシカ問題を聴講。第二日目森林再生をテーマに丹沢に三ノ塔で植栽苗の観察及び保育作業を実習した。第七回を来春に計画中。



4) 調査活動

◆登山者数カウンター調査 (通年)

神奈川県委託事業として丹沢・表尾根公園歩道2カ所の登山者数カウンター調査を毎月1回行った。この事業は平成26年から継続して実施。



◆水環境調査 (H29/6/5)

世界環境デー(6月第一日曜)の前後に全国的に行われる身近な水環境全一斉調査に参加。連盟では2012年から地域の山岳会が行っていたもの拡大継承し、神奈川県西部地区20地点の河川にて調査を行ってきた。



5) 対外協力・啓発活動

- ◆丹沢大山自然環境再生委員会
- ◆丹沢大山ボランティアネットワーク
- ◆丹沢大山クリンピア21実行委員会 ボランティア活動
- ◆かながわ県民と協働による森林づくり実行委員会 定着型ボランティア活動

6) 日山協活動への参加

- 1) 自然保護常任委員の推薦派遣3名(紅葉淳一、湯浅達男、松隈豊)
- 2) 開催事業への参加
 - ◆自然保護常任委員研修会(足柄)
 - ◆自然常任委員総会 山岳自然保護の集い(石川県白山市)
 - ◆関東地区山岳連盟自然保護交流会(奥多摩・予定)
 - ◆自然指導員研修会(オリンピック記念青少年総合センター・予定)

新潟県山岳協会自然保護委員会活動報告（2016～2017年）

1. 自然保護研修会

(1) 第64回自然保護委員研修会（兼県山協親睦登山）

期日 2016. 10. 15～16

15日 会場 糸魚川市森林公園高ノ峯プラトール 参加者30名

講演テーマ 「私の山岳・自然賛歌」

講師 日本山岳会越後支部会員 鶴本修一氏

内容 火打山に辛うじて生延びるライチョウの生息状況

マイコミ平を含む糸魚川ジオパークの特徴、価値

16日 フィールド研修：①マイコミ平（ツアー借切り） 参加者21名

②勝山城跡見学その他 参加者 6名

(2) 第65回自然保護研修会

期日 2017. 5. 13～5. 14

13日 会場 三条市下田「よってげ邸」 参加者22名

講演テーマ 「下田山塊の植物」

講師 植物同好じねんじょ会 刈屋 寿氏

内容 栗ヶ岳を含む下田山塊の植物の30年前と現況

およびヒメサユリの生態

新潟県下越地区の植物の状況、生育環境

14日 フィールド研修 栗ヶ岳「ぶなの道」探勝 参加者13名

2. 新潟県環境企画課自然保護係との懇談会

期日 2016. 11. 22

会場 新潟県自治会館 出席者 新潟県環境企画課自然保護係 3名

新潟県山岳協会 9名

内容 例年と同様、県側より県所管の国立、国定公園、県立自然公園の保全、改修事業の進捗状況報告と次年度以降の実施計画を説明。

・巻機山景観保全工事（県単事業） 巻機小屋～竜王池間木道取替

・苗場山山頂登山道木道設置（赤湯口方面）

・天狗の庭～火打山登山道の木道敷設、老朽木道取替、登山道付替

意見交換

・平ヶ岳山頂付近水場周辺が糞尿等で汚染されている。平ヶ岳は幕営禁止だが、多くの登山者がテント泊している。幕営禁止の周知、トイレの設置、携帯トイレを登山口に置く等何らかの対策が必要。

・角田山山頂のトイレが汚くて使えない（県の態度：市の管理なので市に申入れを行って欲しい）

- ・守門岳袴岳～青雲岳の木道が傾き危険な状態になっている
(県：来年度以降対策したい)

3. 他自然保護活動団体との共同、参加

- ・飯豊連峰保全連絡会・朝日連峰保全協議会への参加
幹事あるいは会員として、または各加盟山岳会を通じて種々の実践活動、合同保全作業、会合への参加を行っている。
飯豊連峰保全連絡会現地保全作業に参加 (9/10～12)
作業個所・内容：天狗ノ庭裸地対策、梶川尾根ロープ張り
- ・五頭山三ノ峰避難小屋荒廃問題につき地域山岳会と共同で森林管理署、山域自治体等と折衝を行っている。

4. 自然保護委員会の開催

期日 2016. 11. 22
会場 新潟県自治会館 出席者 7名

5. 日本山岳協会自然保護指導員新規および更新登録業務を行った。

更新 40名
新規 6名
登録者計 46名

6. その他

来年度春季の自然保護研修会においては、国際アウトドア専門学校の長野康之講師と共同し、妙高・火打山山塊のライチョウ生息状況把握シンポジウム(仮題)を上越地域で開催予定。
(点、線から面での生息数確認を岳人の力を借りて行いたいとの長野氏の意向)

以上

長野県山岳協会の自然保護活動状況

当協会では日山協の組織形態に倣い普及指導部の中に自然保護委員会を設置している。
委員会の構成は県内4支部から選出された自然保護委員と若干名の日山協自然保護指導員からなる。

【主な活動】

1. 長山協諏訪支部が主催する「八ヶ岳清掃登山」への協力。(今年で42回を数える)
2. 山行時に日山協自然保護指導員腕章と身分証明書を携帯しての自然保護活動を行う。
3. 下記の長野県内各種自然保護団体と連携
 - ・乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会
 - ・長野県自然保護連盟
 - ・高山植物等保護対策協議会
4. 個人的に「長野県自然保護レンジャー」、「長野県ライチョウサポーター」に登録。
上記制度に伴い昨年8月に行った北ア大天井岳～東天井岳のライチョウ家族見回りと稜線からのサル追払いを9月にも行った。
また、今年7月には朝日岳周辺でのライチョウ縄張り数調査を行った。

【課題】

1. 個人ベースに頼らず委員会組織としての活動を増やしたい
2. 北アルプスへのニホンジカ侵入防止とライチョウ保護

富山県山岳連盟自然保護委員会 活動報告

2017年9月

富山県山岳連盟 自然保護委員長

藤井久一

1. 自然保護委員会の活動

山岳連盟加盟団体（30団体）から選んでいただいた自然保護委員を中心に構成。

自然保護委員会では、“安全な登山”、“楽しい登山”、“自然を愛し、自然に親しむ登山”を広く県民に啓発することを目的に、一般公募による「自然に親しむ県民登山教室」を、昭和47年からほぼ毎年継続して開催しています。

また、山に関する自然環境や自然保護等の研修会として、自然保護指導員を始め加盟団体の会員や一般の方も対象とした「自然保護セミナー」を、平成18年からほぼ毎年継続して開催しています。（自然保護指導員の登録：現在50名）

2. 活動報告

(1) 平成28年度

- ①第41回 県民登山教室・・・8月27日（土）～28日（日）一般参加者：30名、役員：11名
1泊2日で八ヶ岳（主峰・赤岳）の主稜線を歩きました。赤岳から横岳、硫黄岳も縦走しました。宿泊は行者小屋の山荘。・・・昨年報告済
- ②第11回 自然保護セミナー
 - ・11月13日（日）に富山県立山カルデラ砂防博物館にて「立山の自然」と題して、座学を中心として自然保護指導員等を対象に実施した。参加者は33名。
 - ・講演①「立山の火山活動について」 講師：丹保俊哉（立山カルデラ砂防博物館主任学芸員）、講演②「立山地域のほ乳類について」 講師：白石俊明（立山カルデラ砂防博物館学芸員）、終了後、館内で開催されている特別展「火山と防災」、巡回展「ネパール地震ランタン村災害写真展」を学芸員の解説付で鑑賞した。



受講風景



動物の毛皮の展示

(2) 平成29年度

- ①第42回 県民登山教室・・・8月26日（土）～27日（日）一般参加者：30名、役員：10名
 - ・1泊2日で日本百名山の苗場山を新潟県から長野県へ縦走しました。宿泊は山頂の苗場山自然体験交流センター。
 - ・山頂に広がる湿原では役員が苗場山でみられる高山植物の解説を行い、地形・植生について理解を深めた。

・8月19日（土）に参加者事前説明会を開催し、参加者は安全登山のための心得や、役員の事前調査結果による本番での留意事項について受講した。

②第12回 自然保護セミナー

・11月5日（日）に富山市ファミリーパーク動物園にて、自然保護指導員等を対象に同動物園が取り組んでいるライチョウの人工飼育についての講演を実施する予定。

ライチョウひな誕生

富山市ファミリーパーク

2羽 国人人工繁殖で初

国の特別天然記念物で絶滅危惧種「ニホンライチョウ」の人工繁殖に取り組んでいる富山市ファミリーパーク(同市古沢)は18日、ひな2羽が生まれたと発表した。国の保護増殖事業計画(国)で、野生の卵から人工飼育したつがいによる繁殖に成功したのは初めて。

【関連記事33面、webunに動画】



ふ化したニホンライチョウのひな。富山市ファミリーパーク(同パーク提供)

ズーム ライチョウ保護増殖事業計画ニホンライチョウは高山帯に生息する日本の固有種。1980年代は約3000羽いたとされるが、現在は2000羽以下と推定され、カラスやキツネなど捕食者の増加

や、ニホンジカの分布拡大による生息環境の劣化などが要因と踏まえ、国はこれら状況を踏まえ、繁殖技術の確立を目指す。環境の改善を図るとともに、繁殖技術の確立を目指す。

守ろう

ニホンライチョウ
ひなは17日午後11時15分と41分に相次いで生まれた。体重は15・6gと17・1gで、体長はいずれも約6・5cm。時々、顔を上げてピーピーと鳴く

産卵通常の倍 野生復帰に課題

生態系への悪影響懸念

環境省によると、野生下での産卵数は4〜7個。富山市ファミリーパークでは5月20日以降、1羽の雌が今月18日まで19個を産卵した。ライチョウの遺伝子分析に詳しい富山大理学部の山崎裕治准教授は「良いことのように

環境省などの人工繁殖事業で、成鳥まで育てたつがいの卵から初めてひなが誕生したニホンライチョウ。1羽の雌が産む卵の数が通常の2倍を超えるなど、野生下と異なる環境が原因とみられる課題も浮上している。今後目指す野生復帰に向け、飼育現場と研究機関の本格的な連携が必要となりそう

など元気な様子という。性別は卵に付着したDNAから調べ、約1カ月後に判明する。繁殖は2016年に乗鞍岳(長野、岐阜)で採取した卵から育った2羽で実施。17年5月20日から産卵が始まり、6月18日までに19個を産んだ。

ライチョウ保護を巡る経過	
1963~	大町山岳博物館がニホンライチョウを人工飼育。感染症などで数が減り飼育事業を打ち切り
2004年	ニホンライチョウの保護、繁殖に役立つデータを収集するため、上野動物園がノルウエー原産スバルバルライチョウの飼育開始
10年3月	ファミリーパークでもスバルバルの飼育開始
12年8月	環境省のレッドリストで、ニホンライチョウが「絶滅危惧Ⅱ類」から「絶滅危惧ⅠB類」に引き上げ
10月	国がライチョウ保護増殖事業計画を策定
14年5月	環境省と日本動物園水族館協会は、絶滅の恐れがある動物の繁殖に連携して取り組む基本協定を締結
15年6月	乗鞍岳で野生の卵10個を採取し、ファミリーパークと上野動物園で飼育開始。パークの雄3羽が育つ
16年6月	乗鞍岳で12個を採取し、ファミリーパーク、上野、大町山岳博物館で飼育開始。12月に大町から送った雌1羽をのぞき、雄8羽、雌3羽が成長
17年4月	ファミリーパーク、上野、大町で繁殖スタート

だ。卵は1週間ごとにとまごめて、ふり器に移し、今回、最初に温め始めた20〜25日産卵の4個のうち2個がふ化した。1個は無精卵、1個は途中で成長が止まっていた。現在10個をふ卵中で、次のふ化は6月27日ごろとなる。

石原祐司園長は「ひなの誕生は一つの通過点。種の保存という目標に向かって今後も頑張っていきたいと話した。飼育を優先し公開はしない。同じく繁殖に取り組む上野動物園(東京)では18日までに16個、大町山岳博物館(長野)では8個の産卵を確認している。

29 年度石川県山岳協会活動報告

自然保護活動について、次の通り実施した。

1 登山道整備作業の体験実習と安全登山の集い

(1) 開催月日・場所

6月4日(日) 白山市瀬波地内 オンソリ山(888, 6M)

(2) 参加人数

山岳会員43人、一般45人、計88名(男性42名、女性46人)

(3) 実施内容

ア 登山道整備及び標識設置の体験実習

登山道を整備している地本(白山瀬波の会)の協力を得て、階段を補修したり頂上の標識設置の実習を体験した。

イ 登山道の歩き方や、マナーの指導

一般の参加者が多数おり、安全な歩き方やマナーについて指導した。

(4) 講評

天候に恵まれ、新緑と白山の景色を楽しめ自然保護と安全登山の普及啓発に効果があった。



2 金沢市浅犀みくまり登山道の整備活動

刈払機による整備作業

6月18日(日) 参加4名

3 津端町 森林公園やぶ樺の森 清掃・剪定作業

刈払機による下草刈及びやぶ樺の剪定作業

6月28日(水) 参加4名

4 白山開山1300年記念事業講演会への参加

アルピニスト 野口健

演題 白山霊水山・川・水の恵み

6月24日(土) 鶴来総合文化会館 参加 5名

5 登山届け提出の周知徹底

白山登山する者の登山届け提出が7月1日から義務化され、周知徹底をはかった。

今後の取り組み

自然観察界、自然パトロール・クリーンハイキング等

(自然保護委員 前田健進)

福井県山岳連盟・自然保護委員会報告書（平成28年度）

自然保護担当：大濃孝尚

福井県山岳連盟は来年の「福井国体」に向けて準備中です。

平成28年度活動（平成28年4月～平成29年3月）

平成28年7月10日（日）7:00～16:30

里山と初夏の山野草観察

大野市六呂師高原 35名

里山を散策しながら「初夏の山野草」の名前や特徴を覚えていった。

平成29年3月6日（月）13:00～15:00

夜叉が池保全調整会議（第15回）開催

岐阜県揖斐川町 24名

夜叉が池保全対策について

*関係者のパトロールにて水質の保全や登山者のマナー向上を図る。
絶滅危惧種の夜叉ゲンゴロウの人工繁殖に成功し水族館や昆虫館にて展示を行っている。

平成29年3月12日（日）～13日（月）

平成28年度里山イニシアティブ推進ネットワーク臨時総会

福井県立三方青年の家

三方五湖自然再生協調会議・現地視察

平成29年度「静岡県山岳連盟における自然保護活動状況」について

静岡県山岳連盟 自然保護委員長

1、活動母体

(1) 指導員等

環境省自然公園指導員（県岳連内） 18名、静岡県立自然公園指導員45名、静岡県環境保全管理員 14名。 日本山岳協会自然保護指導員 17名、静岡県高山植物保護指導員 394名

(2) 南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク

構成・・・NPO法人日本高山植物保護協会静岡支部、静岡県山岳連盟、静岡市山岳連盟、井川山岳会、静岡県高体連登山部、(株)特種東海フォレスト、静岡県勤労者山岳連盟

2、活動報告

(1) 富士山

ユネスコ世界遺産の登録前の3年間、県山岳連盟等で清掃登山を行い、世界遺産登録から4年、静岡県は山梨県と共同で種々の環境保全の整備を推進してきた。外国人を含む登山者が増え続け、装備等の不備による事故が心配である。また、予想される噴火に対する施策とその伝達方法が課題である。

(2) 南アルプス（国立公園指定は、知床半島と同じで53年になる）

高度差の大きい雄大な山並と、可憐な高山植物が多く美しい、そして赤石岳を含む10座が百名山を目指して、単独・グループ・中高年・女性の多いツアー登山が毎年増えている。登山口の近くにある「富士山空港」は、富士山や南アルプスの眺望がよく、利用者が増えている。

(3) ボランティアネットワークの活動

- ①ニホンシカの食害対策として防鹿柵を荒川岳、聖平、茶臼岳、三伏峠に設置とその補修、三伏峠・奥聖岳に植生保護のロープ柵を設置した。
- ②台風等による表土流出を防止するため丸太柵工や、ヤシ製マット敷設を聖平・塩見岳・三伏峠に増設・補修を実施した。
- ③植生保護の木道を聖平・茶臼岳、光岳のセンジガ原へ設置し植生がよみ返っている。
- ④南アルプス中南部の山小屋のトイレは、水洗やバイオ式である。避難小屋ではカートリッジ式で荷揚げ時にへりで降ろして処理している。
- ⑤高山植物保護の啓発看板を、登山口や小屋前広場に設置しアピールしている。
- ⑥毎年7月16日畑薙第一ダムサイトで山開きの神事と遭難者の慰霊祭を実施している。8月31日までの間、畑薙臨時駐車場に夏山登山相談所を開設し、山岳連盟と地元井川山岳会が、登下山届の提出と登山コース等の情報提供、自然保護の啓発活動を行っている。

(4) その他

- ①県立自然公園指導員と高山植物保護指導員等を対象に、年2回の研修会で情報交換や有識者の講演など大いに勉強になる。
- ②近年、鹿やイノシシが増え対策を行っているが、山麓の農地が荒らされて困っている。
- ③クマ対策に鈴等を携行してほしい。
- ④二軒小屋近くの地下400mでリニヤ工事が始まる。掘削土の流失対策をしている。

2016 年度 三重県山岳連盟自然保護委員会 活動報告

自然保護委員長 水谷一也
副委員長 橋川弘子

- 6/18 鈴鹿山系 藤原岳・自然観察及び清掃登山 (20名)
山上台地に広がる外来植物ハルザキヤマガラシ現状視察
・あまりに広範囲なため完全駆除は難しい
・登山道脇のみ駆除
・茹でて食すと美味
環境配慮型山上トイレ見学
・2015年春より稼働、無放流処理システム説明
清掃活動
- 9/2-3 日山協自然保護指導員全国大会 (東京 1名参加)
- 10/29-30 鈴鹿山系連絡協議会 (滋賀県 奥永源寺清流の里)
活動報告(別件登山イベントの為、書面参加のみ)
- 11/27 自然保護指導員研修会 (朝明茶屋 14名)
・新規加入4名、指導員の心得について
・他県の活動状況について
・今後の活動について 他
- 10-11月 自然保護月間・各会清掃活動
6団体 県内7コース 延べ92名参加

平成28年度岐阜県自然保護委員会報告

1. 夜叉ヶ池ボランティアパトロール会議 揖斐川町 4/12
2. 夜叉ヶ池 開山祭 6/4(土) AM9:30~
3. 岐阜県オリジナルカレンダー作成 9月
4. 清掃登山・登山道補修・標識整備・自然観察等の推進月間 10月~11月
各山岳会で実施
5. 自然保護委員の増員
 - (1) 夜叉ヶ池ヤシャゲンゴロウの確認個体数の確認
9/16 64個
10/12 39個 近畿中国森林管理局 福井森林管理署報告
 - (3) オリジナルカレンダー作成 ¥500円
 - (4) 4件の報告
 - (5) 新規自然保護委員 3名登録

岐阜県山岳連盟自然保護委員長 門屋峰雄

平成29年度 京都府山岳連盟 自然保護委員会 今年度の活動指針

今年度も、昨年と同様に「継続は力なり」を信じて地道な活動を展開。大きく2本柱を継続中。

- ◎ 6月第一日曜日に、「京都府下一斉清掃登山大会」を実施。今年は49回目。
京都府下の山のハイキング道を中心に、当連盟参加の山岳会員約700名を動員しての清掃活動。京都トレイルコースの大半もf含んでいる。当連盟でも全加盟団体が参加する全体的な行事となっている。京都府、京都市、府下市町村の協力を得ている。

- ◎ 府民対象の「自然観察会」と自然保護委員がみずから自然観察を通しての研修会を実施。
府民対象の「自然観察会」は年に3-4回実施。平均50名前後の参加者あり。自然保護委員の「研修会」は年に3-4回実施。単に観察会のお世話をするだけでなく、みずから山の自然の状況を日頃から観察し、その知識や情報の蓄積とその応用までを目指している。

- ◎ 近畿地区の各府県の山岳会の自然保護委員会との連絡協議会に積極的に参加
自然保護委員会の活動や研修、並びに懇親も兼ねて毎年参加している。本委員会のメンバーも高齢化の一途。往復の距離の関係で参加者が減っているが、出来るだけ参加する方針である。

- ◎ 日山協参加の各都道府県山岳連盟の「自然保護委員会」は、あくまで「山の自然」を意識して、登山者とともに、かけがえのない日本の自然を守っていくことが重要な使命のひとつと考えている。スポーツクライミング競技は、登山から派生した一競技にすぎない。若者の同競技者を応援することはもちろんであるが、とりわけ今まで以上に山の自然を登山者の目線で見守っていく活動の継続が大事ではないか。

平成28年度実施事業

- 1 2 9月13日(火) 委員会
- 1 3 9月3-4日(土・日) 公益社団法人 日本山岳協会
自然保護委員総会(於 東京オリンピックセンター)
- 1 4 9月24-25日(土日) 於 大阪府
近畿地区自然保護委員連絡協議会(研修会一大阪府岳連担当)
- 1 5 10月2日(日) キノコ観察会
- 1 6 10月11日(火) 委員会
- 1 7 10月29-30日(土日) 鈴鹿連絡協議会 於滋賀県
- 1 8 11月4-6日(土日) 全国登山大会 55回 島根県
- 1 9 11月8日(火) 委員会
- 2 0 11月26-27日 近畿地区山岳連盟総合会議 於 滋賀県
- 2 1 12月4日(日) 紅葉観察会
- 2 2 12月13日(火) 委員会
- 2 3 1月10日(火) 委員会

- 24 2月14日(火)委員会
- 25 2月26日(日)野鳥観察会
- 26 3月14日(火)委員会

平成29年度実施事業

- 1 4月11日(火)委員会
- 2 4月9日(日)13:30- 岳連総会 17:00-懇親会
- 3 5月6日(土)
魚谷山・直谷 ヤマシヤクヤクなど植生調査(記録)
- 4 5月9日(火)委員会
- 5 5月14日(日)「府民 新緑観察会」
- 6 5月30日(火)委員会(清掃登山大会の最終打ち合わせ、
委員にはここで用具配布
(各会担当者来訪の上配付可能とする19:00-21:00))
- 7 6月3日(土)清掃用具配付午後4:00-6:00
- 8 6月4日(日)京都府下一斉清掃登山大会
清掃用具受け取り 5月27日(土)17:00-19:00 岳連事務所
- 9 6月13日(火)委員会
- 10 6月18日(日)◎委員研修会「総合観察」於岩倉の里 担当伊佐委員
- 11 7月6-8日(木-土)全日協大会 北海道 羊蹄山

平成29年度後期事業予定

- 12 7月11日(火)委員会
- 13 9月12日(火)委員会
- 14 9月9-10日(土日)公益社団法人日本山岳協会・スポーツライミング協会
自然保護委員総会(於 石川県白山市)
- 15 10月8日(日)キノコ観察会 於 京都八幡「男山」
- 16 10月10日(火)委員会
- 17 10月21日-22日(土日)近畿地区自然保護委員会連絡協議会
(研修会一和歌山県岳連担当)
- 18 9月30日-10月1日(土日)鈴鹿連絡協議会 於三重県
- 19 11月7日(火)委員会
- 20 11月11日(土)自然保護指導員研修会
於東京オリンピック記念青少年総合センター
- 21 11月23日(日)紅葉観察会
- 22 ? 11月26-27日 近畿地区山岳連盟総合会議 於 滋賀県
- 23 12月12日(火)委員会
- 24 1月9日(火)委員会
- 25 2月13日(火)委員会
- 26 2月25日(日)野鳥観察会
- 27 3月13日(火)委員会

文責 山本憲彦

平成 28 年度大阪府山岳連盟における自然保護活動状況

自然に親しみ自然に学ぶ

大阪府山岳連盟自然保護委員会は、山の自然環境保全に関連する諸事業を企画・立案・実践を通じて献身的な奉仕活動と啓発運動を続けています。

「取り組み状況」



平成 28 年 4 月 29 日
金剛山登山口における「みどりの募金」活動



平成 28 年 7 月 30 日
大東市飯盛山にて蝶の観察会を実施



平成 28 年 8 月 11 日
箕面にて「山の日制定記念クリーンハイキング」



平成 28 年 10 月 2 日
六甲山・高座の滝前にて、藤木祭を実施
(日本山岳会関西支部・兵庫県山岳連盟と共催)



平成 28 年 9 月 24 日
河内長野 YH にて「近畿地区自然保護委員
研修会」を実施



平成 28 年 9 月 25 日
岩湧山にて「森の自然観察会」を実施

平成 29 年度事前保護委員会総会事業報告（兵庫県山岳連盟）

〔1〕 報告期間（平成 28 年度）

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

〔2〕 内容

(1) 自然観察山歩

六甲山系を中心に身近な里山の植物観察と基本の（地図）読図を行うとともに環境省アクティブレンジャーによる講習を受けている。

年間 8 回の行事参加者延べ人数 369 名、1 回平均 46 名で、去年度（平成 27 年度）平均 40 名より増加している。

- ① 第 1 回 平成 28 年 4 月 24 日（日）晴れ 参加数 58 名
行事名 陽春の山羊の戸渡コースを辿る
コース 六甲ケーブル下～尾根取付点～山羊の戸渡り～柚谷峠～穂高湖～山寺尾根～長峰堰堤～護国神社～阪急六甲駅 約 10 km
- ② 第 2 回 平成 28 年 6 月 26 日（日）晴れ 参加数 74 名
行事名 二十歩渡りから桜谷西尾根を辿る
コース 新神戸駅～市ヶ原～二十歩渡り～桜谷出合～桜谷西尾根～黒岩尾根出合～摩耶掬星台～青谷道～阪急王子公園駅約 11 km
- ③ 第 3 回 平成 28 年 7 月 24 日（日）晴れ 参加数 46 名
行事名 夏の丹生山系東麓を訪ねる 楽しく学べる植物観察パート I
コース 神鉄谷上駅～鰻ノ手池前分岐点～丹生山系縦走路～神鉄花山駅
- ④ 第 4 回 平成 28 年 9 月 25 日（日）晴れ 参加数 47 名
行事名 石楠花谷中尾根を辿る
コース 神鉄大池駅～石楠花谷入口～尾根分岐～痩せ尾根道～ダイヤモンドポイント～記念碑台～油コブシ道～六甲ケーブル下約 9 km
- ⑤ 第 5 回 平成 28 年 10 月 23 日（日）晴れ 参加数 33 名
行事名 ふるさと兵庫 100 山「三濃山の自然を訪ねる」
コース 羅漢の里駐車場～登山口～三濃別れ～山頂分岐～山王権現～三濃山山頂～感状山～物見岩～登山口～羅漢の里駐車場
- ⑥ 第 6 回 平成 28 年 11 月 6 日（日）曇り 参加数 32 名
行事名 裏六甲有馬落葉山の秋を訪ねる楽しく学べる植物観察パート II
コース 神鉄有馬温泉駅～落葉山西峰～落葉山北西峰～落葉山妙見寺～有馬温泉駅 約 4 km
- ⑦ 第 7 回 平成 29 年 1 月 22 日（日）曇り 参加数 41 名
行事名 仲冬の白川の里を訪ねる 楽しく学べる植物観察パート III
コース しあわせ村～白川の里～石抱きガヤ～雌高座～雄高座～白川化石採取場～しあわせ村 約 7 km

- ⑧ 第8回 平成29年3月26日(日) 晴れ 参加数 38名
 行事名 山岳連盟の森から横池の春を訪ねる
 コース 阪急御影駅～深田池公園～山岳連盟の森～十文字山～打越山～
 ～横池～風吹岩～魚屋道～保久良神社～阪急岡本駅 約10km

(2) 兵庫県山岳連盟の森



神戸市東灘区本山町岡本の山麓で、国土交通省と兵庫県との協力で森の世話人として、六甲山系グリーンベルト整備事業に参加している。
 全9回計画していたが、雨で4回中止し、以下の5回実施している。
 目的 樹林帯整備による土砂災害防止、緑豊かな都市環境・景観の創造
 述べ参加数 93名 平均参加数 18.6名

- ① 平成28年6月8日(水) 晴れ
 夏草刈り、観察コース整備 参加者 20名
- ② 平成28年10月12日(水) 晴れ
 夏草刈り、観察コース整備 参加者 15名
- ③ 平成28年11月9日(水) 晴れ
 雑草除去、不要樹木伐採、観察コース整備 参加者 19名
- ④ 平成29年1月11日(水) 晴れ
 雑草除去 参加者 20名
- ⑤ 平成29年3月8日(水) 晴れ
 植樹(ヤマザクラ、コバノミツバツツジ)、雑草除去 参加者 19名

2017年9月

和歌山県山岳連盟 自然保護委員会
委員長 北 義章

山の日制定を記念して指導委員会との共催で「少年少女登山教室」「自然観察登山」を開催しました。

2016年8月6日(土) ボルダリング教室

昨年の「きのくに和歌山国体」を記念して開設された県中部みなべ町のボルダリング会場で開催。みなべ川森林組合の職員による紀州備長炭について学ぶ。原料となるウバメガシの新芽を残して炭木を伐りだす方法で、大切な森と自然を守り後世に残していること等々。

その後、少年少女によるボルダリング教室が行われミニコンペでは保護者からの熱い声援で盛り上がりました。 参加者(小学生20名)



紀州備長炭について学ぶ

2016年8月7日(日) 自然観察会(竜神山・三星山)

田辺市ふるさと自然公園センターに前日の少年少女登山教室に参加した小学生と保護者、一般参加者が合流。世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺の梅システム」について、みなべ町うめ課の職員を講師に招き、山と暮らしの関わりについて講義を受ける。

養分に乏しい斜面を活用して薪炭林を残しつつ梅林を配置し、薪炭林に住むニホンミツバチと梅とが共生して高品質な梅を持続的に生産、薪炭林を残すことで水源保護、崩落防止等の機能をも残す農業システムなど山と暮らしの関わりについて学ぶ。

そのあと竜神山を目指す猛暑のため、登山口まで車で移動し、2班に分かれ、小学生と保護者グループは語り部の説明を受けながら岳連スタッフがサポートして山頂を目指す。縦走グループは目指す三星山の巨岩を眺めながら竜神山山頂へ。天気に恵まれ田辺湾と太平洋、反対側にはどこまでも続く紀州の山々が望まれる。縦走路に出てまもなくスズメバチに襲われ縦走を中止して山頂に引き返し子供たちと合流して下山する。

参加者 一般(子供6名・大人6名) 岳連関係9名 計21名

猛暑のなかでの開催でしたが参加した小学生、保護者の皆さんはボルダリング競技の楽しさと自然観察、山と暮らしについて学び、有意義な2日間を過ごされたと思います。



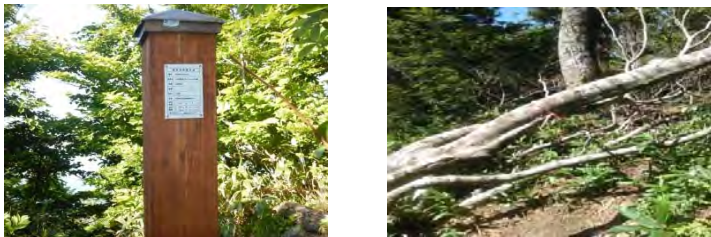


ふるさと自然公園センター



自然観察会

平成29年度自然保護委員会 活動状況

1	4月14日	大山夏山登山道（木道）点検調査
2	4月16日	大山一斉清掃参加
3	〃	大山頂上を保護する会、大山の美化を推進する会総会
4	5月12日	鏡ヶ成湿原復元作業
		
5	5月17日	大山夏山登山道、ユートピアコース整備
		
6	5月25日	中電・山頂保全作業打ち合わせ
7	5月30日	鳥越峠 道標、登山道点検（倒木等を確認 森林管理署へ報告）
8	6月4日	山開き弥山山頂でマナーアップキャンペーン
9	6月12日	森林管理署より報告個所の点検と倒木除去の返事受け取り
10	6月15日	道標 許可申請板取り付け（大山町 報告済）倒木箇所の確認
11	6月28日	ボランティア研修会（県自然保護ボランティア員対象）
12	7月23日	自然保護パトロール（下宝珠～三鈷峰・ユートピア～振り子山～野田ヶ山大休峠）
13	7月27日	鳥越峠 道標、登山道点検
		
14	8月26, 27日	広島県自然保護研修会 吾妻山周辺
15	9月10日	大山キャリアダウンボランティア（山頂小屋の汚物荷下ろし）
16	9月9, 10日	日山協自然保護委員総会（石川県白山市）
17	9月	鳥越峠 道標、登山道点検
18	9月23日	山頂保全作業 中国電力協力（約100名）
19	9月29日	頂上保全作業（頂上を保護する会）
20	10月	鳥越峠 道標、登山道点検
21	11月	鳥越峠 道標、登山道点検
22	11月	鏡ヶ成湿原作業

岡山県山岳連盟 活動報告

自然保護委員長 津島勝洋

2016年 9月3日～4日 自然保護の集い 東京大会 2名参加。

11月5日～6日 岡山県山岳連盟自然保護観察研修会。

研修会議題 ① 山のオーバーユースの問題。

② 山の弁当 ラーメン。

③ 研修会への参加増、内容の充実。

観察会は広葉樹林帯と小鳥の生態系。

10月 12月 市民ボランティア団体 公園を守る会

へ応援、草刈り 10名参加。

2017年 2月 4月 6月 8月 草刈り応援 10～12名。

5月20日 岡山県岳連登山道清掃整備 高倉山 15名。

6月 月間 自然保護指導員推薦募集 新規3名。

8月26日～27日 広島山岳連盟へ自然保護中国ブロック合同研修会「比婆山、吾妻山」 3名参加。貴重な素晴らしい研修であった。

以上

山岳環境保全に対する広島県山岳連盟の取り組み

(一社) 広島県山岳連盟の概要；

加盟団体 29 団体、個人会員他会員数 約 1,758 名

自然保護組織；普及部の中に、自然環境担当が 9 名在籍。 (公社) 日本山岳協会の自然保護指導員；75 名

I. 自然保護活動への取り組み

1. (一社) 広島県山岳連盟では、活動組織の名称を「自然保護」→「自然環境保全」として取り組んでいる。登山者として自然環境の保全（登山をするフィールドの環境を守る事）に取り組むという意図。

2. これまで、清掃登山・登山道整備・西中国山地の看板立て・山や森の手入れ・「山のお弁当」開発・自然保護指導員研修会・それに伴う環境保全ボランティア活動・山の水場の水質検査（継続的に測定）等を行っている。

II. 自然環境保全活動状況（2017年度）

1. 千町原野焼き（2017. 4. 15）

自然保護指導員研修会でお世話になっている講師の要請もあり、加盟団体、個人会員に呼び掛けて、岳連関係は 5 名が参加してボランティアと自然保護の実践を行った。毎年継続行っている。

2. 第 16 回ひろしま「山の日」県民の集い（2017.6/3～6/4）

県下 15 市町 16 会場で一斉実施。6/3 に各会場で山の手入れ等実施。山岳連盟は各会場の都合に合わせて参加する事とし、6/3 に北広島町で臥龍山の登山道整備を 14 名参加で行った。



3. 水質検査（2016. 8）

県内 6 ケ所（比婆山立烏帽子駐車場、比婆御陵、臥龍山、雲月山、白木山、深入山付近）で山岳での水質調査（水温、NH₄、COD、NO₂、NO₃、PO₄、PH、EC、大腸菌等）を 8 月に行った。測定値は場所により同じような傾向が見られる。今後必要な箇所を追加設定し、継続して行く予定。検査は水質パックテスト使用し簡易的に普及部員で行っている。

4. 「山のお弁当」

(一社) 広島県山岳連盟と広島駅弁当(株) が共同開発した「山のお弁当」（自然に優しく、売上金の一部を自然環境基金として広島県山岳連盟に寄贈）を広島駅弁当(株) が販売され、利用者から好評を得ている。自然環境基金で、水質検査キットを購入している。

5. 2017 年度広島県自然保護研修会（2017.8.26～27 日）

中国山地を共有する中国地方 4 県の参加者 29 人と共に「中国山地の自然を知り理解する」を目的に、吾妻山での植物観察会及び庄原市立比和自然科学博物館にて、自然が成り立った地学、歴史、文化を学び、中国山地を擁する他県との情報交流を行った。

6. 昨年より毎月一回「県民ハイキング」と銘打って、山に向うきっかけ作りの中で登山マナーや安全登山を伝えている。昨一年間は携帯トイレを山に持ち上げ、トイレのマナーを伝えた。

7. 自然保護活動の啓発

広島県山岳連盟主催の行事や、岳連指導者派遣事業の機会を利用して、自然環境保全の重要性を説明している。また、各加盟団体が持山等の清掃整備登山の実施や、ゴミの持ち帰りを実践している。

平成28年度 山口県山岳連盟自然保護活動報告

自然保護委員長 井上 佑

山口県には「瀬戸内海国立公園」「北長門海岸国定公園」「秋吉台国定公園」「西中国山地国定公園」がある。山から海へと川で結ばれている。

神奈川県小田原市の「ブリの森プロジェクト」や広島の「カキの森」等全国で海の漁師が山に広葉樹を植林し、その落葉が川を下りプランクトンを育て、それを子魚が餌に海を豊かにし漁獲量が増えていると聞く。河川と海のコンクリート護岸にするにせよ、水面下の部分にはウナギの寝床状の小トンネルを穿ち各種生物の生息出来るよう配慮したい。川岸、海岸には魚付き林を育て、魚の棲める環境にしたいものだ。

海岸を見ると多くの海洋漂流ゴミが溜まり、日本の物だけでなく中国、韓国のものも多い。地球だけがもつ貴重な「水」であることを日本人はその豊富さにより忘れている。海水が蒸発し、陸上でも生物を育てているのである。地球の海域に入るプラスチックごみは年間800万トンといわれ、プラスチックは劣化をしても消滅はしない。海洋生物はこれ等を飲み込んでいる。まず海岸ゴミの撤去は国と国連を挙げてやるべきであろう。

山口県の山間地域をみればニホンシカは生息地を拡大し、イノシシに足を噛まれたと言う人に多数逢った。環境庁の時代から鳥獣の数値予測が甘く現在に至ったものである。イノシシは学習能力が高く、かつては冬の寒冷期に餌が少なく生存数を減じていたが、最近葛の繁殖域が広がり、この根を鼻で掘り出し食して冬を生き延びている。

2月28日、陶ヶ岳ヤブツバキ保護、日照を妨げる雑木の伐採、65名参加。

地蔵院コースのシダ除草作業

4月20日、十種ヶ峰(989m)のヤマシャクヤク鑑賞路の整備と保護啓蒙。

6月26日、陶ヶ岳清掃登山と観音小屋修理。80名参加。

秋吉台遊歩道の草刈り

12月3日、陶ヶ岳ヤブツバキ保護、雑木伐採。

平成29年度自然自然保護委員会活動報告

平成29年8月20日
徳島県山岳連盟 自然保護委員会

自然保護委員会の活動内容

- 1) ミツマタ植樹活動への協力
- 2) 剣山国定公園地域連携協議会への参加
 - ① ニホンシカ被害対策協議会
 - ② 登山道調査部会

1) ミツマタ植樹活動への協力

木沢林業研究会・ミツマタクラブが裸地化した山の崩壊を防止するため、ミツマタを植樹する活動を行っていることを知り、平成26年より徳島県山岳連盟もこれに協力することになったが、1回目平成26年11月、2回目平成27年5月、各2000本植樹した結果、全て枯れ失敗に終わる。3回目平成28年6月に土付き苗と土なし苗を比較するため植樹した。平成29年8月ミツマタに、根が付いたかを確認した結果、土付き苗10数株が新しい葉をつけ、根付いてくれていた。土なし苗は残念ながら、また枯れていた。2年前、那賀町木沢の四季美谷温泉近くの対岸の斜面にハート形にミツマタを植えたが、土が少なく乾燥して半分が枯れていた。今回は平成29年5月、岩石地で何も生えていない斜面に植生を復活させる作業のため、土のうで土を運び、ビニールシートで土のうを滑らし、斜面に土を盛り、150本のミツマタを植樹した。植栽後はミツマタの作業場でミツマタの皮剥ぎの体験をした。作業場の横には昨年種を採ったミツマタを植えてあったがまだ芽は出ていなかった。



2) 剣山国定公園地域連携協議会

剣山国定公園地域連携協議会とは、徳島県、みよし市、美馬市、森林管理署、自然保護団体、山岳団体等、剣山国定公園に関係するすべての団体が、それまでバラバラに活動し効率が悪かった点を、連携して協議することにより、活動する。活動は現在2つの分科会の中で行っている。徳島県山岳連盟は平成27年度より登山道調査部会に参加し、平成29年度よりニホンシカ被害対策協議会にも参加する。

① ニホンシカ被害対策協議会

徳島県内の個体数管理

年度	平成29年	平成30年
推定生息数(頭)	36,422	31,271
目標捕獲数(頭)	13,800	12,000

- ・モニタリング調査は継続して行う。
- ・モニタリング調査(糞塊調査)は、徳島県の依頼で毎年行っていたが、予算が着いたため業者に発注することになり、岳連関係者による調査はなくなった。

② 登山道調査部会について

剣山国定公園を囲む自治体、活動の場としている団体、国土地理院及び剣山サポータークラブが連携し、正確な登山道の位置及び状況の情報共有や現地調査を行い、その結果を登山マップや安全管理、環境保全に活用することを目的に、平成29年度は、剣山⇄一の森の登山道補修、三嶺・天狗塚登山道への案内板設置及び南つるぎ登山道の調査を行う。

平成29年度長崎県山岳連盟自然保護活動状況

長崎県山岳連盟
自然保護委員長 稗田 守

高山植物の植生保全活動

長崎県の多良岳山系には標高800Mから1000M付近に大キツネノカミソリ、コバノミツバツツジ、まんさく、ヤマグルマ、などの高山植物が植生し植物観賞の登山者も多い、その中で大キツネノカミソリの群落は7月下旬から8月上旬にかけて開花期を迎える。

この時期は花を観賞する登山者が多く、マナーの良くない登山者も見られるため立ち入り禁止、足元注意の表示板およびロープにより登山道の指定、注意の呼びかけなどの指導を行う。特に写真撮影者のマナーが良くない。

この花はヒガンバナ科の花でオレンジ色の6枚の花びらを持つ、特に沢沿いのガレ場に多く高さ50cm程度で不注意に歩けばすぐ花を痛めてしまう恐れがある。その為機会あるごとに立ち入らないよう注意を呼びかけている。

紙くず空き缶等の美化活動

毎年6月第1日曜日に県岳連加盟団体において各地元の山の清掃登山を実施、県内の主な山は雲仙岳（国立公園）と佐賀県にまたがる多良山系（県立公園）が主な所であるが、そのほか各会の自然保護指導員に計画してもらい周辺地域の低山に脚を伸ばしてもらっている。

実施内容は各自ゴミ収集の準備をしてゴミを集めるとともに、登山者に環境美化の指導も行う、最近では登山者のマナーも以前と比べたら良くなっている。

しかし登山道から一歩外れればまだゴミの放棄が見られる為、これからは登山者のマナーのさらなる注意喚起が必要と考える。

登山道、指導標及び危険箇所の修理

県岳連レスキュー委員会と共同し登山道の危険箇所の補強、岩場のフィックスロープ及び鎖の取り付け、危険箇所立ち入り禁止の表示版設置を行なっている。雲仙岳は国立公園内である為危険箇所のび鎖の取り付け等、最小限に抑えて実施しているところである。

県立公園多良岳については中腹に少年自然の家がある為、そこを利用する子供たちの登山研修もよく実施され急傾斜の登山道は崩落が有り、危険なところも多い。

その為フィックスロープの取り付け、危険箇所の立ち入り禁止表示など入念に行う。また最近山岳マラソンが多良山系で行われることが多く、登山道の整備も大会に合わせて実施することもある。また各会の自然保護指導員は登山道の樹木の整理など簡単な補修を登山時に行い、落石などの恐れがある場合県関係者へ連絡し補修整備依頼している。

まとめ

8月11日が山の日として祝日に制定され、昨年よりその日に合わせ県内各会の行い自然保護と、登山を楽しんでもらうよう合同登山を実施しているが、合わせて植物開花時期における観光登山者等のマナー向上及び自然保護の指導普及を図っていく必要がある。

山の自然保護は各登山者個人の自覚が一番必要だと考えられるので、個人啓蒙も必要。

山梨県山岳連盟・自然保護委員会活動

平成 29 年 9 月 9 日(土)

山梨県山岳連盟 自然保護委員会

委員長 磯野澄也

自然保護委員会の活動はほぼ毎年同様な事項を踏襲していますが、年々より活発に多くのメンバーに参加して頂き、より高きを目指した活動を行っています。

自然保護委員会活動

山梨県山岳連盟の構成は 24 団体約 800 名と、他県に比べパイは小さい。しかし身近の山岳自然環境に恵まれているせいか、会員の山に対する意識と岳連活動への協力度は高い。

委員会組織は各会より自然保護に関心がある方が委員になり、本年度は 31 名で構成されている。これに岳連役員 4 名が加わり奇数月毎に開催、自然保護に関する事項を協議し活発に議論している。委員の中には希少高山植物の生態系・環境に大変詳しい方もおり、内容も高度化している。自然保護活動は比較的若手に関心が薄いとみられていたが、山梨大学・山梨学院大学生も委員に加わり、積極的参加して頂き将来が楽しみである。

今年度の山岳レインジャー登録は 19 団体 146 名が登録された。レインジャーに先立ち研修会は 4 月に 2 回開催、延べ 87 名が受講した。資料は毎年調査業務実施要領を発行し、調査内容の質向上を高めている。そして 5 月から 9 月までの間、希少野生動植物種の生育調査活動がほぼ毎週延べ 300 名を超えるレインジャーにより実施している。山梨県内の南アルプス・八ヶ岳・秩父多摩甲斐の国立公園・国定公園、その他確認のあった高山帯・亜高山帯が対象になり、毎週数班に分かれ調査活動が展開される。完了後、例年 11 月に反省会を開催し特筆事項を次年度に活かし、その報告内容は詳しく分析し県に報告書として提出している。これらにより次年度、調査範囲の拡大・ルート変更などに反映される。毎年かなりの人員にて手間暇をかけているがそれだけに貴重な資料となりえる。

山岳レインジャーを中心に高山植物をより深く知るため、年 4 回の高山植物現地学習会を開催、昨年度 39 名参加に対し今年度は黒岳・三ツ峠・楡形山・北岳にて展開、既に完了し延べ 84 名が参加した。毎年初めての参加者も多く、より高山植物に親しむ登山者が増えに行くことは意義深い。更に希少高山植物の指定種（18 種）以外の絶滅危惧種の調査にも重要性を認識し、一步踏み込んだ活動も取り入れ年々進化している。山梨岳連内では山岳レインジャー活動を通じ、花に親しむ登山者が大変増加した。山へ登る動機はそれぞれ目的によって異なるが、より高山植物を知れば知るほど別な山の登り方・楽しみ方が増える。

委員会で問題提起された報告事項から関係所轄官庁にも働きかけ、大変貴重な希少種に対する保護柵依頼、山小屋整備及び山岳トイレへの支援、ニホンジカ被害に対する防鹿柵の拡大の依頼等提言している。その他各種の自然保護に関する会議にも極力参加し、委員会にて水平展開し、委員全体の資質向上を図っている。

山岳レインジャー活動から見えてくるもの

活動は山梨県から委託を受け既に 30 年を超えている。平成 20 年希少野生動植物種保護条例に改正されてからも今年で早 10 年目になる。毎年多数の報告から見えてくることは地球温暖化の進行である。これは年間平均気温が関係しており、甲府では平成 20 年：14.8℃から平成 28 年度：15.7℃と年度によってバラツキがあるが確実に進行している。過去では 1900 年：13.0℃、1980 年：14.0℃、2000 年（平成 12 年）：15.0℃と急上昇している。平均気温が 1℃上ると、約 100 km 南の地点、高度では 160m 低い標高の同気象条件になる。

近年の気温上昇からニホンジカが 3000m の高山帯までに進出し異変が起きている。そして高山植物の踏み荒しと食害が拡大され、山の裸地化と植生変化が進行している。跡地にはシカが嫌うマルバタケブキ・コバイケイソウ・ヤマトリカブト・ササ等の群落に生態系が変化する。北岳：草スベリ上部及び右俣周辺はシナノキンバイからマルバタケブキ・コバイケイソウの群落に、鳳凰三山：賽の河原では踏み荒しによる裸地化、八ヶ岳では全般に皮剥ぎ被害が、楡形山では希少高山植物が消え不毛地化とマルバタケブキ群落に、大菩薩峠ではササの群落に、と全ての山域に亘る報告があり大変危惧される。

年度の気象条件から高山植物の開花時期も年により 2～3 週間くらい大きくずれ、希少種の生育に変化が生じている。新条例から 10 年経過の契機として、来年の山梨岳連 70 周年記念事業にその実績を纏める予定である。

里山の自然に親しむ

下部温泉郷にある「醍醐山：634m」は、どこにもある里山の低山で過疎化の進行と共に荒れ果て忘れ去られた山であった。標高から山のスカイツリーとして登山道が整備され早 5 年が経過した。支援組織「醍醐山を愛する会」は、町内外を含め 200 名強の会員を擁しその活動は年々活発化している。5 月の一斉登山では 3 歳児から 85 歳まで 102 名が参加した。手頃の山だと誰でも参加でき山に親しみ、その小さな感動がより登山へ興味を持ち、登山愛好者の増加に繋がる。会の活動内容は「醍醐山と下部温泉」ブログで発信している。

昨年度は身延町の町民税提案事業で採択され、登山道整備及び景観整備・頂上休憩舎整備・トイレ整備・パンフレット制作等の事業を行い、より充実化され多方面から登山者が来訪している。先般 6 月には全国旅館ホテル生活衛生同業組合より、地域の旅館に貢献したことを評価され、第 20 回人に優しい地域の宿づくり賞：優秀賞を受賞した。

まとめ

昨年より 8 月 11 日が「山の日」として祝日になった。今年も各地で多数のイベントが企画され、より多くの方々が山に親しみ楽しんだ。各種の活動通じて感ずることは、山岳関係者は出来る範囲でより底辺を広げ、自然に親しみ山の良さを身近の方々に広報すべきと考える。行政には前述の自然環境の問題点をより注視し、実務に照らしたスピーディな支援と政策をお願いしたい。山梨岳連としても微力ではあるが、自然環境保全に今後も活動し継承して行きたい。

行程： 越前荘発 9/10 9:00 ～ 白峰地区探訪問 ～ 12:00 (昼食後解散の予定)

参考情報：

日本屈指の豪雪地帯であるきびしい自然と風土がつくりあげた、雪とともに生きる独特の伝統的生活様式が残る保存地区は、近世以来、天領・白山麓十八ヶ村の政治経済の中心集落として栄えてきた。

白峰地区は白山市の伝統的建造物群保存地区となっており、山間部の狭隘な敷地に主屋が通りに面して建ち並び、地区の中央部には、社寺及び大家が居を構え、これらを囲む石垣が連なり、特徴ある景観を形成しています。また、豪雪という気候風土や養蚕という生業に即して発展成立した地方色豊かな伝統的建造物群が良く残りまた、厳しい自然環境にある山村集落の歴史的風致を良く残し、価値が高いと評価されている。

林西寺(上画像上段右)には、白山禅定道より下ろされた銅造十一面観音立像(重要文化財)、「白山五仏」(県文化財)と呼ばれる仏像群が安置されています。古来、白山の山頂には多くの尊像がまつられていましたが、明治の神仏分離令により山頂にあった仏像は下山を余儀なくされ、白山下山仏と呼ばれている。

白峰地区の街並み



白峰伝統的建造物群保存地区視察参加者名簿

A班

NO	班	氏名	性	所属
1	L	能村 輝夫	男	石川
2	SL	松本 一之	男	石川
3	役員	小川 義弘	男	石川
4	役員	中田 豊美	女	石川
5	役員	中山 登喜子	女	石川
6		日野 幸次郎	男	兵庫
7	写真	手塚 福寿	男	栃木
8		手塚 明子	女	栃木
9		仙石 富英	男	日山協
10		奈良 忠男	男	栃木
11		藤島 邦夫	男	栃木
12		高橋 邦夫	男	栃木
13		手塚 幸子	女	栃木
14		細井 寧	女	栃木
15		門屋 峰雄	男	岐阜
16		栗木 洋明	男	愛知
17		豊田 稔	男	静岡
18		稗田 守	男	長崎
19		高木 均	男	群馬
20		高木 薫	女	群馬
21				

B班

NO	班	氏名	性	所属
1	役員	高田 和彦	男	石川
2	L	前田 健進	男	石川
3	SL	村本 和央	男	石川
4	会計	松代 喜恵子	女	石川
5	役員	高野 宏子	女	石川
6		伊藤 克己	男	日山協
7		本郷 潤一	男	富山
8		藤井 久一	男	富山
9		山本 憲彦	男	京都
10		増尾 翼	男	京都
11		西田 和美	女	京都
12	記録	濱田 伸	男	千葉
13		高取 和彦	男	山形
14	写真	田上 正敏	男	茨城
15		津島 勝洋	男	岡山
16		小林 陽祐	男	岡山
17		濱本 幸弘	男	岡山
18		井上 佑	男	山口
19		大濃 孝尚	男	福井
20		芥藤 豪	男	大阪
21		松本 健祐	男	石川

白峰地区周辺図



白山登山（砂防新道コース 別当出合基点～室堂）

登山行動： 別当発（9/10 9:00）～室堂着（9/10 14:00）～室堂小屋泊～下山（8:00）～別当着（9/11 11:00）
 ～御前荘着（14:00）～砂防館見学など～解散（15:00）

片道行程： 約 6.0Km （標準的な所要 登り：4時間、下り：2時間半）

白山登山参加者名簿

A班					B班				
NO	役務	氏名	性	所属	NO	役務	氏名	性	所属
1	CL	松代 正範	男	石川	1	L	上野 義一	男	石川
2	L	林 昭男	男	石川	2	L	森田 伸彦	男	石川
3	会計	山口 春美	女	石川	3	救護	森田 佳美	女	石川
4	記録	堀江 伸子	女	日常任	4		相澤 重夫	男	埼玉
5		今井 茂子	女	埼玉	5		柴崎 英保	男	埼玉
6		吉岡 登規子	女	埼玉	6		小暮 慶司	男	埼玉
7		外山 美智子	女	埼玉	7		若狭 千江子	女	埼玉
8		吉田 秀夫	男	埼玉	8		福田 モトヨ	女	埼玉
9		伊藤 直	男	新潟	9		阿部 和子	女	埼玉
10		井口 礼子	女	新潟	10	記録	増田 修	男	日常任
11		遠藤 俊一	男	新潟	11		尾市 佐保子	女	埼玉
12		紅葉 淳一	男	日常任	12		橋川 弘子	女	三重
13	救護	湯浅 達男	男	日常任	13		藤川 敏光	男	徳島
14		三川 朝光	男	神奈川	14		小田 里子	女	広島
15		松隈 豊	男	日常任	15		福永 やす子	女	広島
16		伊藤 篤子	女	神奈川	16	写真	小林 貞幸	男	日常任
17		磯野 澄也	男	山梨	17		北 義章	男	和歌山
18		中川 恵美子	女	山梨	18		下内 幸一	男	鹿児島
19		中澤 智子	女	山梨	19		麻田 正博	男	高知
20		松家 明則	男	鳥取	20		石井 弘好	男	東京
21	写真	廣田 博	男	日常任	21		小高 令子	女	日常任
22	記録	猪狩 ノブ	女	日常任	22	記録	岡田 博行	男	日常任

※所属欄の「日常任」の記載は日山協自然保護常任委員を示す。



別当登山口



弥陀ヶ原

白山周辺図



白山は、『越白嶺』と書いて『こしのしらね』と呼ばれ、その名残が現在の白山周辺の地名『白峰』として残っている。その後、『白山』と書いて『しらやま』と読む時期を経て、現在の呼称となっている。最高峰は御前ヶ峰の2702m。活火山で1659年（万治2年）噴火している。現在、噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）である。

開催地一覧表

開催回	開催日	開催地	主管団体
1	1977/9/11	東京月岸記念体育会館	中央常任
2	1978/12/9-10	秩父市「秩父福祉婦人会館」	埼玉県
3	1979/9/1-2	文部省登山研修所（立山町）	中央常任
4	1980/11/15-16	京都嵐山常寂光院	京都府
5	1981/11/1-2	鳴子町鬼首温泉	宮城県
6	1982/10/30-31	芦安村南ア温泉ロッジ	山梨県
7	1983/10/22-23	白川郷民宿「大杉」	岐阜県
8	1984/10/27-28	茅野市「唐沢鉱泉」	長野県
9	1985/10/5-6	田沢湖「鶴の湯温泉」	秋田県
10	1986/11/8-9	玉野市王子ヶ岳	岡山県
11	1987/10/17-18	新野地温泉	福島県
12	1988/10/22-23	五色台国民休暇村	香川県
13	1989/9/9-10	日光湯元温: 043	栃木県
14	1990/8/18/19	立山「雷鳥社」	富山県
15	1991/11/9/10	滋賀県永源寺	滋賀県
16	1992/10/17/18	水上町水上温泉	群馬県
17	1993/10/16-17	尾口村一里野温泉	石川県
18	1994/10/15-16	田方郡箱根ランド	静岡県
19	1995/10/21-22	東茨城郡「御前山荘」	茨城県
20	1996/10/19-20	マウンテンパーク津南カガンロッジ	新潟県
21	1997/10/18-19	川内町湯野川温泉	青森県
22	1998/10/31-11/1	鳳来町「愛知県県民の森」	愛知県
23	1999/10/9-10	羽黒町「大進坊」	山形県
24	2000/7/8-9	宮島町「杉之浦公民館」	広島県
25	2001/2/7-8	今庄町「保健センター」	福井県
26	2002/10/5-6	西根町「いこいの村岩手」	岩手県
27	2003/9/20-21	金屋町「生石高原青年の家」	和歌山県
28	2004/10/23-24	上屋久町「離島開発センター」	鹿児島県
29	2005/11/26-27	鴨川市「黒潮荘」	千葉県
30	2006/6/10-11	竹田市「久住高原荘」	大分県
31	2007/11/3-4	秩父市「三峰神社宿坊」	埼玉県
32	2008/11/8-9	東大阪市「グリーンガーデン枚岡」	大阪府
33	2009/11/7-8	新居浜市「銅山の里」	愛媛県
34	2010/9/11-12	柏崎市「じょんのび温泉施設」	新潟県
35	2011/10/15-16	大山町「ホテル大山しろがね」	鳥取県
36	2012/9/8-9	美瑛町「国立大雪青少年交流の家」	北海道
37	2013/9/14-16	小川町「県立小川げんきプラザ」	中央常任
38	2014/11/22-24	広島市文化交流会館など	広島県
38	2015/9/12-13	磐梯青少年交流の家	福島県
40	2016/9/3-4	国立オリンピック記念青少年総合センター	中央常任



発行元

公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会 自然保護委員会

〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1

岸記念体育会館 4F

TEL 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395

HP www.jma-sangaku.or.jp